

第4章 地域の概況

1 徳丸地域について

(1) 地名の由来

徳丸の地名は、「天神宮紀」（北野神社蔵）によると、徳麻呂という人が開拓した土地であったので名付けられたと（年代不詳）言い伝えられている。

(2) 地 勢

この地域の大部分は武蔵野台地上に位置している。ほぼ中央を東西に前谷津の谷が切り込み、また徳丸一丁目と二丁目の間を、長谷津の枝谷が北から南に向ってあり、かつては小川が流れ、前谷津と合流し、高島平団地内を通り新河岸川に続いていた。北辺は台地の端になり、いくつかの溺れ谷が切り込み、低地を境として首都高速5号線が高架で走り、高島平地区となっている。

南辺には東武東上線が通り、練馬区と接している。西は新大宮バイパスの一部と四葉一、二丁目を境にしている。

(3) 世帯数、人口の推移

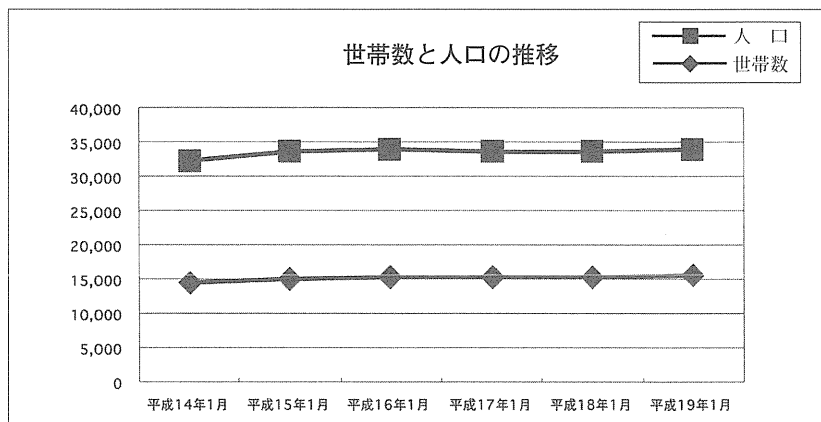
2007(平成19)年1月の世帯数は1万5511、人口は3万3799人であり、2002(平成14)年1月と比較してみると、世帯数で1198、人口で1658人増加している。農地や自然林が宅地化され、マンション等の集合住宅が建設されていることが一因である。

(4) 町会・自治会

徳丸地域には15町会、1自治会（2007（平成19）年1月現在町連加入数）がある。2000世帯を超える町会もあり、また、歴史のある町会が多い。課題としては、次のことが挙げられる。

①町会・自治会では役員の高齢化、担い手の不足により行事や活

図表 4－1 徳丸地域の世帯数と人口



	世帯数	人 口
平成14年1月	14,313	32,141人
平成15年1月	15,038	33,625人
平成16年1月	15,276	33,822人
平成17年1月	15,241	33,559人
平成18年1月	15,395	33,708人
平成19年1月	15,511	33,799人

動の実施に支障が生じているほか、少子化や単身世帯の増加、集合住宅建設の増加に伴い、地域におけるコミュニティが一部で希薄になってきている。

- ②マンションやアパートなどの建設時における新規入居者や、共働き世帯、単身居住者等に対し、町会・自治会への入会の勧誘活動を行っているが、なかなか入会に結び付かず、加入率が伸び悩んでいる。

(5) 公共施設

区民の地域交流の施設として、徳丸地域センター、きたのホール、区民集会所 5 か所が設置されており、町会・自治会活動、趣味のグループ活動等に利用されている。

図表 4－2 徳丸地域の公共施設

施 設 名	年間利用人員
徳丸地域センター	36,698人
きたのホール	153,928人
西徳第一公園内集会所	8,197人
徳丸五丁目集会所	3,136人
徳丸ヶ丘公園集会所	4,189人
徳丸石川集会所	8,384人
徳丸三丁目集会所	7,870人

(2005年度)

(6) 学 校

区立小学校 3 校、区立中学校 1 校があり、児童生徒数、学級数は他の地域の学校と比較して多い。また、都立有徳高校が2007(平成19)年 4 月に開校する。

(7) 交 通

鉄道は東武東上線が南を走り、東武練馬駅が置かれている。乗車人員は年間1041万1577人、1 日平均2万8525人(2004年度)であり、区内では 3 番目に乗車人員が多い駅である。

また、管内には国際興業のバス路線が 5 系統あり、徳丸通り、不動通り、徳丸石川通り、西徳通り、新徳丸通り沿いにバス停が 19か所設置されており、東武練馬駅、高島平駅、志村三丁目駅、浮間舟渡駅等に連絡している。

(8) 地域活動

町連徳丸支部、青少年健全育成徳丸地区委員会、エコポリス板橋徳丸地区環境行動委員会が主催又は共催して、桜まつり、少年野球大会、野外キャンプ、クリーン作戦、夜間防犯パトロール等、年間に28の行事を実施している。また、単位町会においても夏の盆踊り、秋まつりなど、活発に地域コミュニティ事業が行われている。

(9) 地域の特徴

この地域は、他の地域と比較して緑被率が高く、自然環境の豊かな地域である。崖地を利用した昆虫公園、水車公園など、自然環境を活かした区立・都立公園が14か所ある。また、北野神社の田遊び、獅子舞、四つ竹踊りなどの伝統芸能、北野神社秋の大祭などの伝統行事が数多く残されている。特に北野神社の田遊びは長徳元年(955年)、北野神社の創建時から行われているとの記録があり、国の「重要無形民俗文化財」、区の「登録無形民俗文化財」に指定されている。

2 不動通りについて

(1) 地名の由来

東武練馬駅から高島平に向う通りの途中(徳丸二丁目18番)に、中尾不動尊があることから、不動通りと呼ばれている。

(2) 町会・自治会

不動通りに隣接している町会・自治会は、徳丸協栄会、徳丸不動町会、徳丸親和会、徳丸第一町会、徳丸平和会、徳丸三交会の6町会である。地域活動としては、夏の盆踊り、秋まつり等の行事や防犯・防災活動、資源回収などのリサイクル活動等を積極的に行っているほか、北野神社の田遊び、獅子舞等の伝統芸能の伝承にも取り組んでいる。また、2006(平成18)年10月から東武練馬駅周辺が路上禁煙地区になり、タバコのポイ捨て禁止活動及びガムのポイ捨て等の清掃活動に合わせて各町会で町の美化活動にも一層力を入れている。

課題としては、「1 徳丸地域について」で述べたように、町会・自治会の役員の高齢化、担い手の不足により、行事や地域活動の実施に支障が生じていることやマンション等の新規入居者、共働き・単身居住者に対し町会・自治会への入会の勧誘活動を行っても、なかなか入会に結び付かないことが挙げられる。

図表 4－3 徳丸地域の町会・自治会

町 会 名	設立年月日	世帯数
徳丸協栄会	昭和23年3月1日	2,030
徳丸不動町会	昭和35年2月1日	543
徳丸親和会	昭和23年3月25日	2,583
徳丸第一町会	昭和30年4月1日	1,269
徳丸平和会	昭和22年	1,911
徳丸三交会	昭和32年5月1日	1,468

(世帯数は2005年10月1日現在)

(3) 商店街

不動通りに係わる商店街としては、徳丸不動通り商店会、西徳商栄会の2商店街がある。

図表 4－4 徳丸地域の商店街

商店街名	設立時期	会員数
徳丸不動通り商店会	昭和33年	19
西徳商栄会	昭和32年頃	36

次に、徳丸不動通り商店会及び西徳商栄会の役員から聞き取りをした商店街の歩み、現況、課題について述べる。

徳丸不動通り商店会

「設立時の会員数は18店舗であり、当時は上下水道もなかったため、各戸で井戸を使用していた。谷状の地形のため、雨が降ると広い不動通りが川のようになって、店内に水が流入して大打撃を受け、復旧するまで大変な苦労があった。その後、道路も舗装され上下水道も完備して、商店街の発展が期待された。

1970(昭和45)年に大東文化大学の1、2年生が東松山キャンパスに移転してから、通りを歩く学生が半減した。またその後、大学のスクールバスの送迎が始まった。

2000(平成12)年に板橋サティが出店してから、個人店は影響を受け、最盛期の45店舗から激減してしまった。不動通りは大型店へ行き帰りする都内や都外の車及び路線バスやスクールバスの通

りとなり、人通りの少ない活気のない通りとなってしまった。

現在の19店舗の会員のうち発足当時から続いている店舗は4店舗のみで、ここ10年位の変化は著しい。増加しているのは、7店舗あるコンビニエンスストアぐらいである。

しかし、少人数の商店会員であっても、地域行事や地域の美化活動等に積極的に参加して、町会や地域行事に貢献している。

人をいかに商店街に誘致できるかが課題であり、後継者のいない会員の店が圧倒的に多い中、個人商店の生き残りについて、商店のみならず地域で真剣に取り組んでいく必要がある」。

西徳商栄会

「設立時の会員数は20店舗であったが、最盛期には会員数は60以上に上り、生鮮三品（野菜・魚・肉）の店舗も健在であった。また、当時は少年野球チームをつくり活動を行うほど会員数も多く、交流も活発であった。

2000(平成12)年に板橋サティが出店してから、個人店は影響を受け、最盛期の60店舗から激減してしまった。

不動通りは大型店へ行き帰りする車や路線バス、スクールバスの通りとなり、商店街には人通りが少なく、活気がなくなってしまった。いかにして人通りを多くして、来店者を増やしていくかが課題である」。

以上の聞き取りから、両商店街とも設立時から徐々に発展を遂げ、会員数も増えていったが、近年の大型店出店の影響を受け、通りを通過するだけの人や車両が多くなり、店舗が減少して活気がなくなっているのが現状である。

商店街にいかに人を呼び込むかが大きな課題となっており、中元・歳末福引大売出しを実施して集客に努めているが、十分な効果が上がっているとは言い難く、地域住民の協力を得てイベント事業を行うことなどを契機として、少しでも集客に結び付けたいと考えている。

参考文献

1. 板橋区教育委員会編『文化財シリーズ第81集 板橋の地名』板橋区教育委員会、1995年。